

— 住学協同への実験 —

筑豊ゼミ研究会報 7月号

NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター・筑豊ゼミ研究会報第 12 号 2014 年 7 月 10 日

7 月例会は 7 月 16 日(水)午後 7 時～9 時

[ひきこもり研究会：7 月 17 日(木)午後 7 時～8 時 45 分 飯塚市民交流プラザ]

受付(市民遺産研究会)は視聴覚教室(4 号館 1 階)で行います。インフォメーション(連絡事項)等を、最初に行いますので、受付後午後 7 時迄視聴覚教室に待機してください。

市民遺産研究会(4103 視聴覚教室):

- ・筑豊への来訪者に炭鉱遺跡を中心とした観光ポイント(食事施設、観光施設、遺構)を入れ価値コースを持ち寄り、意見を出し合いいくつかの統一コースを検討作成する。
- ・それぞれのコースの案内ガイド(説明)ができるように資料の作成も検討する。

独楽研究会(4401 教室):

- ・右回しと左回しとの違いを何種類かの独楽を変えてデータを取り変化を検証
- ・独楽が長く回るには理論的に検証
- ・ビジネスとして考えてみる

ひきこもり研究会

(7 月 17 日(木) 午後 7 時より、飯塚市民交流プラザ):

～ どなたでもお待ちしております ～

山田 知弘 さん よりのお話と質疑

* 山田さんは、10才頃より17才まで、不登校・ひきこもりをされて、17才春より社会参加を目指し、現在32才。2012年春 京都より飯塚市に転入 整骨院開業 現在は篠栗町に転居し訪問治療を主に営業中です。これまでの悪銭苦闘や17才より寄り添ってきた野田とのエピソード、そして今の心持ちをお話していただきます

情報発信/データデザイン研究会(午後 5 時 3 号館 3 階 3304-B: 情報工房):

- ・筑豊ゼミ HP で使用する Word Press の学習。
- ・ホームページの設計、及び製作。

筑豊ゼミ・研究会報告

市民遺産研究会 6月定例研究会

会長 白神 精一

長弘先生より過去10年間(15期～25期)にわたる筑豊ゼミの大学祭展示資料を閲覧。

諸先輩の労作を拝見しながら、展示資料の作成について意見をかわす。これまでの資料はまとめて白神の方で保管。必要な折は閲覧できるようにしている。

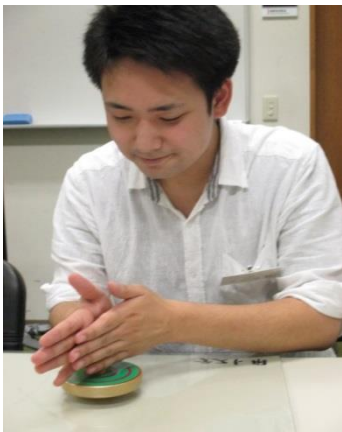
石炭産業を思い起こさせる炭鉱遺構の写真展(直方市石炭記念館で開催)の資料を配布。

地図入りの炭鉱遺構と今までの自然、文化、近代化遺産を列記した資料を説明。これらの資料をヒントに観光客(友人、親戚)に筑豊を案内できるルートを次回作成して持ち寄る。

独楽研究会 6月定例研究会

会長 笹原 泰史

新しくメンバーが参加されましたので独楽の回し方の話をした後、実際に回して独楽の回転数を1秒単位で測定する。学生会員の吉田氏が昨年よりの課題でありました右回転と左回転では独楽の回転時間はどう変化するかを検証しました。新メンバーの中尾さんよりビジネスとの考えは？との質問がありました。又、安永さんより「独楽は何故倒れないのか」の本から独楽の話をしました。



吉田氏の独楽回し



安永氏の話の本

ひきこもり研究会 6月定例研究会

会長 野田 隆喜

3名の方が「お試し」と新聞記者1名、計9名での例会でした。30分弱のドキュメントを視聴後解説、その後質疑応答となりました。質疑のなかで、ドキュメントに登場した若者の心持ちに特に違和感はなく、むしろ共感することがあります。と出演者と同世代の会員よりの感想。

また 不登校指導に関わっておられる参加者の方より具体的なアプローチ方法について質問

があり

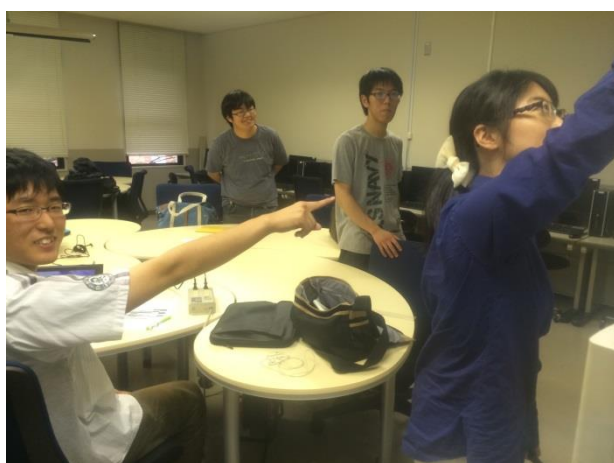
1. 今在籍している学校には行きたくないけど他の場所には通学できる方
2. 自宅からでないし学校等に関心無しの方

大別するとこの二つになりますが

1.と 2. では対応が全く異なります。同じ対応はできず個人に合わせて対応方法を考える事が大切かと

情報発信/データデザイン研究会(pdd 研) 6月定例研究会

研究会員 田畑 勇城



情報発信/データデザイン研究会(pdd 研)は、近畿大学産業理工学部が、ホームページなどの情報発信媒体を通じて筑豊地域の活性化を図る目的として平成 26 年に作られた組織です。主な研究内容は、どうすれば飯塚市の人々に興味を持ってもらえるようなホームページを作れるか、どうすればより効果的に筑豊のいい所を知ってもらえるか、それを学生がこれまでに得た知識を活用し、実際に形にすることをしています。

[6月の活動内容]

pdd 研は毎週水曜日にメンバーで会議を行っています。今月は pdd 研のサイトのレイアウト構成を議題に話し合い、実際にプロトタイプをいくつか挙げながら構成を皆で考え発表することで、HP の見た目、内容を記した HP の設計図を作成しました。

また、筑豊地域づくりセンターの HP の改良のため、クライアント側の要望に出来るだけ忠実に応えたいと考え、ヒアリングシートを考案し提示する方針を決定しました。

[今後の活動予定]

pdd 研 HP 開発を開始すると共に、今後 Web サイトを制作する際にクライアントの方々の要望をお伺いするための指針となる、ヒアリングシートを制作しました。ヒアリングシートとは、クライアントの方々に向けた質問を提示したもので、サイト制作の要望があった際には、そのヒアリングシートに沿った質問をさせていただきます。現在の pdd 研ホームページ上にヒアリングシートの PDF ファイルを掲載する予定ですので、一度目を通していただければ幸いです。何卒、御協力をよろしくお願い致します。

ビオトープ研究会 講演会報告

ビオトープ研究会 会長 近藤友里

講演会 世話役 宮原亜弥

ビオトープ研究会では、数年後の校舎建て替えを期に、校内にビオトープを作って頂く計画を進めています。今回は、校内にどのようなビオトープが作れるか検討するための勉強会の一環として、九州管理協会の大平 裕氏による講演会を企画しました。

開催日時:平成 26 年 7 月 3 日 17:00~18:00

講師:大平 裕氏 (九州管理協会 1 級 ビオトープ管理士)

題目:「ビオトープの整備について」

講演内容:

○ビオトープの概念

ビオトープは「生物の住む、ひとまとまりの空間」を意味し、その目的は「生物多様性の保全」にある。よって、ビオトープは「生物の生息環境を整えて、自然の回復力や潜在能力にまかせる」ものであり、「生態系の保全や自然環境と土地利用の調和の中心的な役割」を担うことになる。

○ビオトープ キーワード

生態系:同じ場所で生活する多様な生物と物理的環境で構成されるシステム

生態系には大きく分けて小規模な生態系;水滴、落ち葉などと大規模な生態系;河川や流域、気候帯、海洋などがあり、それぞれは生物間の相互作用で結ばれネットワークを形成している。

○生物多様性

- ・いろいろな(多様な)場所がある→生態系の多様性
- ・いろんな種類の生き物がいる→種の多様性
- ・いろいろな個性がある→遺伝子の多様性

○生態的地位(ニッチェ):生態系の中である生物が占める位置

- ・動物 食物連鎖の位置
- ・植物 生息環境(土壌、水分、温度、日照)
- ・競争関係の原因

○ハビタット:特定の種の生息環境を示す

○エコトーン:異なる環境が接する移行帯

- ・陸地と水辺、草地と森林、里山と農地
- ・環境条件が狭い範囲で変化するため、多くの生物の生息環境になりやすい
- ・ビオトープの計画・設計のポイント

講演では、ビオトープの関連法案についても説明がなされたが、大学構内であれば、法案に縛られることが少ないので、項目(生物多様性に関する条約、生物多様性に関するシラクサ宣言、生物多様性基本法)だけを列記し、詳しい説明は省略する。

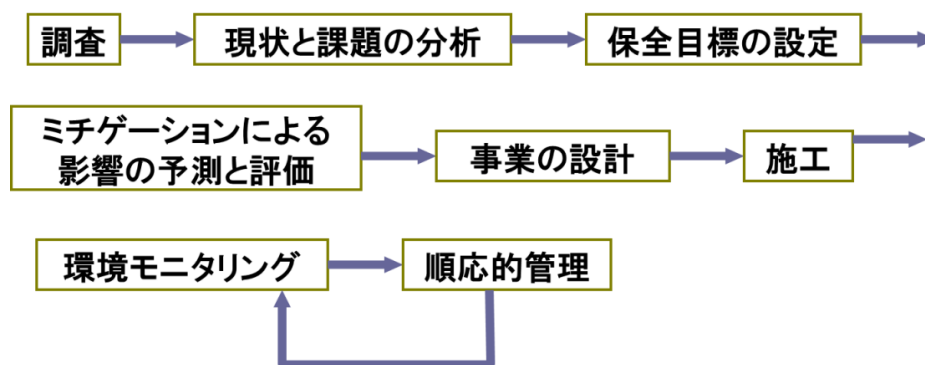
○自然生態系に配慮した計画・設計：計画・設計におけるミチゲーション(mitigation)

生物多様性や生態系のシステムと建設技術のシステムを調和して新たなシステムを構築(生態工学、保全生態学)するには、ビオトープの考え方が有効である。

ミチゲーションとは、開発による環境への影響を緩和するための保全行為のことで、「ノーネットロス(No Net Loss)原則」と呼ばれる、以下の原則によって、失われた環境と同等以上の環境の再生が担保され、影響を差し引きゼロにすること

1. 回避:開発全体あるいはその一部を実施しないこと
2. 最少化:事業の規模や程度の制限により、影響を最小限に止めること
3. 修正・修復:影響を受けた環境の修復・再生・復元により、影響を矯正すること
4. 軽減:事業の期間中に保護や管理を行うことにより、影響を軽減または除去すること

○ミチゲーションのフロー



自然環境に配慮した計画・設計施工の事例として九州大学伊都キャンパス(早期樹林化と現況植生の有効活用のため高木移植、根株移植、林床土移植を行っている)とグリーンパーク・臨海ビオトープ(メダカ池の護岸に田んぼの畦を移設し自然性の高い池を目指している)が紹介された。

これからのビオトープづくりについて、4つの視点からの説明があった。

1. 生態系保全の視点

- ・ビオトープは生物のいる「箱庭」ではない
- ・ビオトープの目的は「生物多様性」の保全
- ・ビオトープは「生物の生息環境を整えて、自然回復力や潜在能力にまかせる」もの

2. 共生と参加の視点

- ・人間と生態系の共生 ・生態学と工学の融合
- ・地域社会との共生 ・役割分担に応じた参加

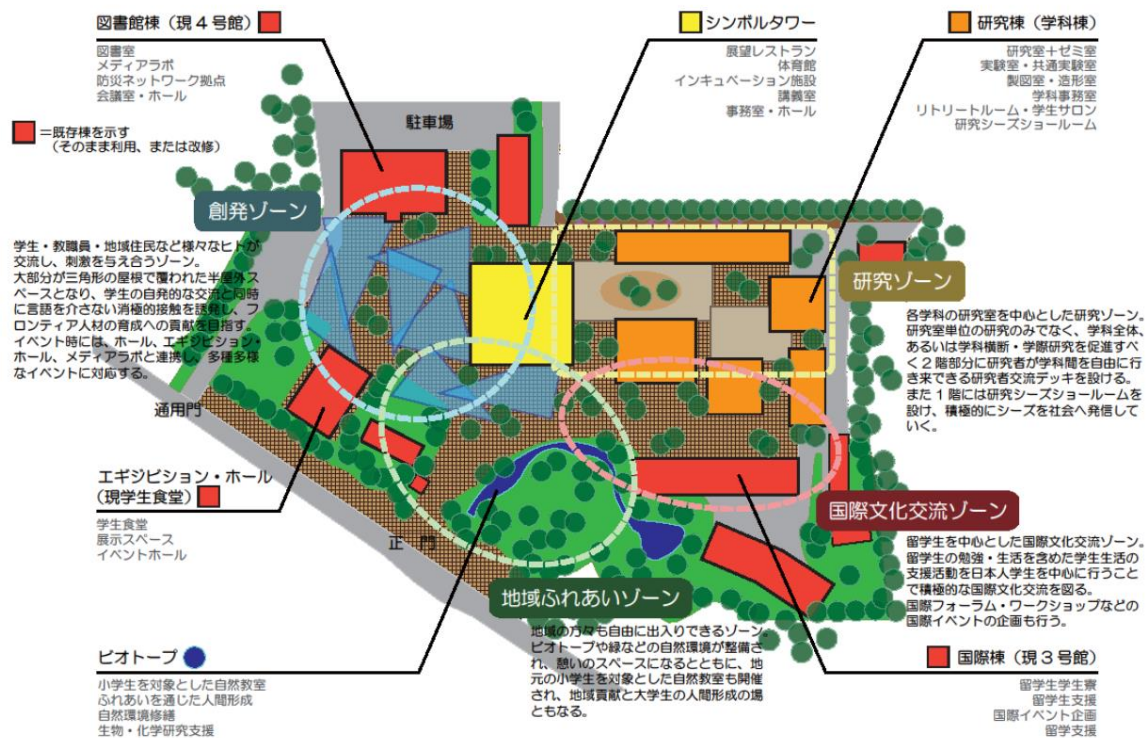
3. 現況と課題の調査と分析

- ・生物相、生息環境 ・生物の移動経路(ビオトープネットワーク)
- ・生物の生息空間(ハビタット、ビオトープ)
- ・土地利用の変遷 ・地域住民や関係者の意識調査

4. 保全目標の設定

- ・対象の生物種(群) 例:猛禽類、湿地の水生生物、林内の昆虫
- ・環境要素 例:昭和30年代の樹林地
- ・目標達成の方法 例:溪流を水源とした湿地の造成
:農家と地域住民を主体とした維持管理協議会の運営

ビオトープ作りの例として、福岡工業大学と精華女子短期大学のビオトープが紹介されたがいずれも敷地は広いものではないが、近くの山からとってきた土をいれたかんたんなものである。ビオトープを作るのには、出来上がるまでの期間や広さでなくコンセプトが大事でできるだけ近くから土や植物などの移植をすること、水は雨水などをためてこれを有効に使うなど、簡単な工夫でできるものだと感じた。最後に、本学部にビオトープを作るにあたっては、大学の周りに、池、川、林などもあるので、ネットワークは十分形成されているようなので、校内にクヌギなどを植えればカブトムシなども呼び込めるし、正門の入り口斜面はこのまま保全されれば、下には水たまりもあり、すでにビオトープになっているとの意見も頂きました。ここに、自然とめずらしい生物でも生息してくれるようになれば、なお、ビオトープの価値が上がるような気がしました。



情報交差点

筑豊での話題やイベント情報を掲載します。予告や結果報告等、皆様からの情報を待っています。

送付先 e-mail : chair@chikuzemi.com (運営委員長) : sec@chikuzemi.com (事務局長)

URL: <http://www.chikuzemi.com/> (筑豊ゼミ)

<http://www.chikuhou-jugaku.org/> (NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター)

筑豊近代化発祥の地 目尾炭鉱の遺構を探る

日時: 7月13日(日)13:30~15:30 場所: イヅカコミュニティセンター

講師: 長弘雄次さん(九州共立大学名誉教授) 定員: 36人 料金: 200円

問い合わせ先: 嘉飯山郷土研究会事務局(☎0948-25-8538)

筑豊の大学オープンキャンパス！ちょっと覗いてみませんか！

近畿大学産業理工学部 <http://www.fuk.kindai.ac.jp/prospective/opencampus/>

7月26日(土) 8月23日(土) 9月28日(日) 10:00~16:00

近畿大学九州短期大学 <http://www.kjc.kindai.ac.jp/event/archives/18>

7月13日(日) 8月2日(土) 9月13日(土) 午前の部 10時~、午後の部 13時~

九州工業大学情報工学部

<https://www.kyutech.ac.jp/examination/s/opencampus/>

7月19日(土)・20日(日) 9時半~16時 午前の部: 9:00 午後の部: 12:50

福岡県立大学 <http://www.fukuoka-pu.ac.jp/OpenCampus.html>

8月9日(土) 10時~16時

発行: NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター 第27期筑豊ゼミ

責任者: 第27期筑豊ゼミ運営委員長 菊川 清

編集者: 第27期筑豊ゼミ運営委員会事務局長 主税 洋三

住所: 〒820-8555 飯塚市柏の森 11-6 近畿大学産業理工学部気付 第27期筑豊ゼミ

連絡先: 090-9485-5985 (運営委員長 菊川) 090-8624-2886 (事務局長 主税)

e-mail: chair@chikuzemi.com (運営委員長) sec@chikuzemi.com (事務局長)